

日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第70号 2010年3月31日

資料見聞

二つの元親坐像



木造長宗我部元親坐像（県指定） 秦神社蔵

みなさんは、どちらが本物か分かりますか？
右側の坐像が、リニューアルにもなう「長宗我部室」の目玉として製作されたレプリカです。
本物の元親坐像は、長く秦神社で祀られてきました。県指定文化財になったのを契機に当館に寄託されています。
しかし、資料保存の観点から、常時展示することはできないため、特別のご許可をいただいで複製を作らせていただいたのです。
今回の複製製作にあたっては、まず本体表面の剥落止めを入念に行い、内型・外型製作、成形用樹脂注入、そして彩色など、延べ八〇日にわたる作業を経て完成にこぎつけました。
最も難しかったのが、元親の両眼と冠の製作でした。坐像は、国の重要文化財に指定されている肖像画と同じ頃の作と見られますが、若干異なるのが元親の表情です。坐像の方が何となく虚ろな表情をして



元親坐像(本物)の冠 〈後部の大半がなくなっている〉

(野本)

いるのですが、その雰囲気を作りだしているのは、左右非対称の瞳です。瞳の角度調整はほとんどミリ単位で行われ、大変神経を使う作業でしたが、職人さんの超人的な技術によって、本物と変わらぬ仕上がりとなりました。
また、本物に装着される冠は傷みが激しく、ありのままに復元するかどうか悩みましたが、結局垂簾なども正確に復元し、本来の形状に近づけています。
天正一六年（一五八八）、豊臣家大名に名を連ねた元親が、聚楽第行幸に際して身にまとったのは、まさにこのような装束であったと考えられます。そして、とりわけ損傷の激しい冠は、その時の遺品なのかもしれません。

リニューアル開館によせて

～見学者の期待に応える展示をめざして～



館長宅 間一之

当館は平成三年に高知県内ではじめての歴史系総合博物館として開館しました。以来二〇年間、歴史を生き抜いてきた財産である文化財を集め、守り、調査して研究し、展示して理解してもらい楽しんでもらってきました。しかし現在は、高知県内の歴史系資料館や歴史的人物の顕彰館なども各地に建設され、施設環境もまた見学者のニーズも大きく変化してきました。見学者や研究者の間からも、変化の少ない総合展示室についての苦情やご意見、長宗我部氏の居城跡に存在する資料館でありながら、長宗我部氏に関する資料展示の貧弱などが常に指摘されるようになりました。また一昨年七月には岡豊城跡が国指定の史跡となり、今後この城跡の保存管理と活用策を確立する中心施設とならねばならなくなりました。加えて近年の戦国武将ブームによる若い人達の長宗我部氏に寄せる関心の高さなど諸々の要素に押されながらのリニューアルでした。財政的に

は厳しい時でしたが、各方面の方々のご理解とご協力により実現することができました。

総合展示室については考古学、歴史学、民俗学の三学協業の研究を使命とする歴史民俗資料館という性格を損なうことのないよう、それらの研究成果を通じて高知県の歴史が理解できる展示を心がけました。時代をおつての展示は、ともすると平板で変化のない展示になりがちですが、テーマや企画する内容に応じて、展示される資料はもちろん展示場の変化も楽しんでもらえる展示室の設定を心がけました。従来の模型等による固定された展示はできるだけ避け、変化し動きが可能な展示室をめざしました。近年、人々の博物館に寄せる要望も高度化、多様化し、多岐にわたるようになりました。そうした要請にも応えることができる展示施設を考えました。

また、国史跡岡豊城跡に建つ資料館であれば、城主長宗我部氏を中心とし

た展示が必要なことは言うまでもありません。二階展示室はすべてを長宗我部氏関係の展示場としました。今回のリニューアルの目玉でもあります。秦はた氏の土佐来国から土佐の有力土豪に成長する。そして栄光の時期を経て挫折をたどる長宗我部氏の軌跡を、生の資料で忠実に伝えることにしました。また体験の場として中富川の戦いの本陣を再現しました。長宗我部軍勝利の勝ち鬨とどろきの声が聞こえそうな迫力のあるものに仕上がりました。戦いの場にのぞんだ大將が、部下とともに作戦を練るその気分を味わっていただけます。

財政的にも人的にも厳しい状況の中でのリニューアルでした。意図したところが完全に果たせたものではありません。これからも徐々に整備しながらより充実していきたいと思っております。このリニューアルを、新たなサービスを創出、新しい活路を見いだしていくチャンスにしたいとも考えています。

昨年一〇月全国博物館大会が北海道

の旭川で開かれました。そこでも地域に生きる博物館のあり方が論議されています。博物館が生涯学習機関として、また文化施設として地域住民や利用者との連携を密にし、生涯学習やまちづくりの中核施設としての存在理由を社会公共に明らかにしていく重要さが話し合われています。急激な時代の流れや社会の変化、厳しい経営環境の中で、地域との連携による多岐にわたる活動の充実を図っていくことがきわめて重要な時と考えます。そのことを念頭に精一杯の努力を続けていきたいと思えます。

四月上旬にはリニューアルオープンに先だつて、南国市との連携による初の「岡豊山さくらまつり」と、自然写真家前田博史氏の写真展「深山みやま」を開催します。その波に乗ってリニューアルオープン、続いて「龍馬伝」関連の「幕末 志の時代展」の一つとして企画する「土佐勤王党盟主 武市半平太の手紙」。これは北川村立中岡慎太郎館との共同企画でもあります。五月には全国の長宗我部ファンが岡豊城に集結する「長宗我部フェス」、そして八月にはNHK大河ドラマ「龍馬伝」の巡回展と続きます。今年は歴史民俗資料館にとって鍵となる年でもあります。

新設

長宗我部展示室の見所紹介

当館の二階・受付横には、民俗展示室があり、これまでお客様を真っ先に誘う展示室として親しまれてきました。

そして、この度の大規模な展示変更により、この部屋は長宗我部氏をテーマとした展示室へと生まれ変わりました。

準備期間は僅か半年。コンセプトをじっくり練る余裕はありませんでした。しかし、過去三回行われた長宗我部氏をテーマとした展示会のノウハウと、開館以来当館に寄贈・寄託された貴重な資料を十分に生かすことは決定していました。

当館の至宝ともいえる、全国唯一のまとまった「長宗我部氏コレクション」の中核は古文書です。一次史料から垣間見える、長宗我部元親ら、中世の人々の思考や人間性を見つめてゆくことは実に興味深いことなのですが、文書だけの展示は、必ずしも一般受けしないのが実状です。

今回のリニューアルの方針のなかには、「これまででない新しい展示室のあり方」という項目があり、ベーシックな展示手法を維持しつつも、長宗我部氏のことに全く関心がない人でも思

わず足をとめて見入ってしまうような「何か」が必要でした。

この新展示室のサプライズを考えるにあたり、幾つかの試案がありました。それは、導入部に「戦国・武将・合戦」を、誰もがイメージできる仕掛けをつくることでした。

案の一つは、岡豊城の麓にあつたであろう居館内部の原寸大復元でした。最近各地の資料館に見られるようになった情景再構成手法による思い切った復元展示で、これなら見応えは十分なのですが、経費や基本史料がないことなどの理由でボツになりました。

そして、もう一つの案が、武将が野戦の時に設営した本陣の復元でした。もともと本陣は臨時的に設営されるものですから、「フレキシブルな展示室」という固定展示厳禁の今回の理念にも合い、何より斬新さが魅力でした。

他の都道府県立博物館にも、ご当地の戦国武将に力を入れた展示を行っている館は多数あります。しかし、文書や甲冑、刀剣類を並べ立てた展示は、美しく重厚なのですが、どこか近付きがたく、面白さもないような気がします。新展示室では、まず長宗我部元親の

坐像（県指定文化財を複製したもの）が皆さんをお迎えし、さらに本陣へと進む導線となります。この本陣のディテールにはかなりこだわりましたが、時間と経費の関係上、ある程度のごろで妥協しています。

設定は、「天正一〇年（一五八二）八月二七日、中富川合戦前夜の軍議の場」としました。残念ながら、当時の遺品はほとんど残っていないので、他的大名家の遺品や軍記物などから推定し、最終的には「関ヶ原合戦図屏風」

に描かれている長宗我部盛親隊を参考に作り上げました。

陣幕や作戦台、本陣旗を置いただけの空間では物足りない一方で、実際に畳床几に腰掛けていただき、元親の初陣から中富川合戦に至るストーリーを描いたビデオをご覧いただくコーナーとしても生かせるようにしました。このコーナーは、体感コーナーですので、記念写真等も自由です。

ビデオでは、元親や信親、久武内蔵助などがCGで作られた画面に登場。実際に会話をするシーンもあります。もちろんフィクションですが、本陣周辺の展示資料をご観覧いただく時の参考になるセリフを随所に盛り込みました。

体感コーナーでご満足いただいたあとは、いよいよ本編となります。ストーリーは四章だてで、秦氏の入国から始まり、とかく難しくなりがちな解説パネルですが、今回はカラフルなイラストや、凝った図表をふんだんに使用。いちいち文章を読まなくても一定の流れがつかめるよう工夫してみました。様々な学識経験者の方から、リニューアルにあたり「長宗我部氏をテーマとするのは良いが、お国自慢にならないように」というご指摘をいただきました。今回はその点にも十分配慮し、長宗我部氏の強さも弱さも、ありのままを紹介しています。（野本）



長宗我部展示室の本陣内部

リニューアルした総合展示室

当館の常設展示室は、これまで三階が考古・歴史分野、二階が民俗分野による展示室でした。今回、二階が長宗我部展示室に改修されるのに伴って、三階は、民俗を加えた三分野による新・総合展示室に生まれ変わります。

これまでの常設展示は、昭和五四年に設置された文化振興専門者会議のメンバーである、考古・歴史・民俗各分野の先生方の検討・調査・協議を経て、昭和六三年度に展示実施設計、平成元・二年度に展示工事がおこなわれ、三年五月に公開されました。準備から開館まで実に一二年の歳月を要しました。以来、二〇年が経過し、展示ケースや展示台、映像機器なども修繕が必要になりました。夏には二〇一〇年NHK大河ドラマ特別展「龍馬伝」の巡回も予定されており、企画展示室だけでは資料が展示しきれないことから、大規模な巡回展にも対応できる総合展示室が求められました。

また当館は、平成一六年度には公開承認施設となり、国の重要文化財を展示できる施設と認められています。

新しい総合展示室は、このような要請に基づいて、展示替えにも対応が容

易で、なおかつ重要な資料の展示も可能な装備を備えた展示室として改修されることになりました。

展示ケースには、外気を遮断して一定の温湿度を維持するのに優れたエアタイトケースを増やし、LEDの照明を採用しました。また、展示室内の模型を減らし、自由に展示替えができるグリッド空間も採用しました。

新しい総合展示室は、歴史のおおまかな流れをつかみながらも、より庶民史の視点で展示を展開することになりました。

次に時代別に展示について一部紹介したいと思います。

◆旧石器時代～古墳時代

旧石器時代から縄文時代の展示コーナーでは、弥生時代という扉が開かれ



せんこくれき 縄文時代後期後半
線刻礫 四万十市大宮・宮崎遺跡
四万十市教育委員会蔵

るまで自然と生きた人々がどのように道具を使い、信仰していたのか紹介します。縄文時代の晩期の土佐市居徳遺跡の土偶や耳飾りなど高知県指定文化財も取り上げます。

弥生時代では、稲作により時代が大きく変化したことを紹介します。弥生時代前期、全国的に有名な南国市田村遺跡群の土器や弥生人の道具、そして弥生人の絵画キャンパス（絵が刻まれた土器）にも焦点をあてます。

古墳時代では、土佐の古墳と水に関わる祭祀について紹介します。今回は香美市土佐山田町伏原大塚古墳の埴輪（県指定）や南国市長畝古墳群の埴輪や須恵器なども展示します。

◆古代～中世

古代では、律令制下の土佐の様相について役所や古代寺院、郡衙に関連するものや山岳寺院などについて紹介します。



井戸跡から出土した慶長十一年（一六〇六）の折袴札
南国市田村遺跡

中世では、荘園関係資料や輸入陶磁器、一括で埋納された銭貨、石造塔婆、田村の環溝屋敷群の終焉を物語る文字資料などを紹介します。

◆近世

近世では、築城奉行・百々越前に関する資料や、捕鯨などの新収蔵資料の他、今回新たにお借りした資料を展示します。これまで小学校が来館する折に展示解説の要望が多かった野中兼山の新田開発についての資料も充実させています。「維新の胎動」のコーナーでは、時代の大きなうねりをもたらしたのは坂本龍馬ら下土ばかりでなく、上土は勿論のこと、庶民らの裾野の広がりがあったことを、教育面などから紹介していきます。そして、グリッド



土佐国領内絵図

の下で高知城下町の展示を展開します。

◆近代

近代では、高知県の近代化を物語る通送車などの資料や戦争資料などを展示します。



通送車

◆戦後の生活

これまでの展示ではほとんどふれられていなかった第二次世界大戦後の歴史も生活の変化にスポットを当てて紹介します。高知県の特色をあらわす郷土玩具や観光ポスターも展示します。

新しくできたグリッド展示では「海に生きる人びと」と「山にくらす人びと」の二つのテーマで、漁撈技術や山に暮らす人々の知恵を紹介しています。

準備時間があまりにも無かったために不十分な部分もありますが、マンガを使った解説など、わかりやすく、面白い展示をめざしました。ぜひ新・総合展示室をお楽しみ下さい。

◆民俗

民俗は、高知県の庶民の暮らしや文化を紹介します。祭礼、年中行事、人生儀礼、信仰などを紹介するコーナーでは、陰陽道ブームで全国的に名を知られるようになった旧物部村の「いざなぎ流」の御幣や仮面も展示します。



土佐お化け草紙(複製) 原資料 堀見忠司氏蔵

いざなぎ流の御幣や仮面も展示します。



相合傘

展示以外のリニューアルについてのご案内

コンセプトは「利用しやすい施設」づくり

副館長 猪野満

開館以来二〇年を迎える当館の改修工事（リニューアル）は、展示室関係は勿論のこと、利用施設も開館当時は想定していなかったような事がいくつもあり、この機会にできる限りの改善を図り、来館者の皆様にこの施設を利用していただきやすいものにするべく努力をいたしました。

●多目的ホール(旧AVホール)

開館当初、二階のAVホールは映像関係を中心に利用するホールとして設計されていたため、講座や会議等で利用する場合に照明が均等にホール全体に当たらないという欠点がありました。しづらいとの声を多くいただきました。今回の改修により映像システムの変更は勿論、天井照明も一新して明るく、講座や会議等にも利用しやすいホールとしました。

通常時は、高知県の民俗や歴史を紹介する映像ホールとして、講座や会議時には明るく、パソコンを使つての映像も流せるシステムが利用できる研修ホールとして、多目的利用が可能となりました。定員も最大一〇〇名から一五〇名と広がりました。



新しい多目的ホール

●バリアフリー化した正面入口

駐車場から当館一階入口までは、石段で階段状のアプローチとなっていたため、障害をお持ちの方や高齢者の方には非常に不評でした。今回の改修では一階入口ゲートまで車での進入が可能(但し、駐車は出来ませんが)となり、また雨の日の乗り降りのために雨よけ屋根も設置しました。手摺付スロープを設置するなど、人に優しい入口となるように改善いたしました。

開館から二十歳となる「れきみん」をこれからもどうぞよろしくお願いたします。

企画展

「土佐勤王党盟主 武市半平太の手紙―拝啓 おとみ殿―」

会期：平成二二年四月二四日(土) ～ 六月二〇日(日)

土佐勤王の志の時代展
 志の時代展

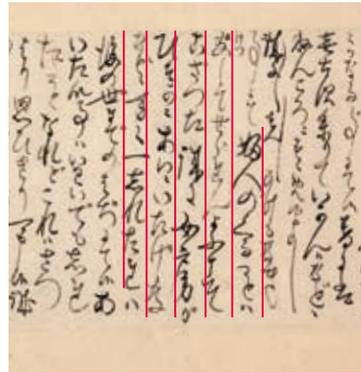


武市半平太(瑞山) 獄中自画像

武市半平太(瑞山)は郷士のなかでも比較的裕福な白札の家に生まれました。若い頃から国学や剣術を学び、のちには強烈な尊王攘夷の志士となったことはあまりにも有名です。しかし、最近では、吉田東洋の暗殺など、過激な思想・行動のみがとりざたされ、等身大の姿が見えにくくなっているのではないのでしょうか。

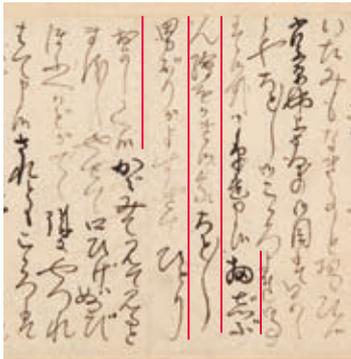
今回の企画展では、几帳面な半平太が妻・富に宛てた手紙を通して、人間・武市半平太に迫ります。

現在、半平太が富にあてた手紙は、獄中書簡を中心にして約二〇〇通あまりが現存しています。これは、武市家のご子孫宅で大切に保管されてきたもので、昭和五二年に高知県に寄贈されました。今回の企画展では、この膨大な手紙のなから、彼の政治思想に関



武市半平太書状 第十九巻 慶応元年(1865)1月2日妻・富宛(部分)

●傍線部現代訳
 女房が牢屋にこつそり会いに来たと知れたら大変である。よくぞ思いとどまってくれた。それでこそわが妻である…。



武市半平太書状 第二十三巻 元治元年(1864)7月15日頃 妻・富、姉・奈美宛(部分)

●傍線部現代訳
 牢内で自画像を描いたが、ちよつと男前に描いてしまった…。

わるものや、妻・富をはじめとする家族に対する深い愛情がうかがえるもの、さらに人間・半平太をよく表しているものを厳選し、一堂に展示いたします。これまで、企画展などで部分的に紹介されることはありましたが、今回のように手紙を全面に出した展示会は史上初となります。

手紙に見られる、繊細で知的な文章。そして時にユーモラスな土佐方言を使つたくだりなどは特に興味をそえられるます。



鏡新明智流皆伝全 桃井春蔵印可
 入門した翌年に免許皆伝・塾頭となった



竹図 武市瑞山筆
 獄中の作と考えられる



武市半平太等贈位祭文 板垣退助筆

また、関連資料として、手紙とともに武市家に伝えられた刀・書画などの美術・工芸品や、妻・富に関する資料、死後の名誉回復に関する資料も展示し、周辺を彩ります。

なお、この企画展は、当館のリニューアル記念企画展であり、北川村立中岡慎太郎館との共同企画展となります。どうぞご期待ください。(野本)

※関連行事として、バスツアーも予定しています。詳しくは八頁をご覧ください。

二〇一〇年NHK大河ドラマ

特別展「龍馬伝」この夏 歴民で開催

7月31日(土)～8月31日(火)

坂本龍馬は、天保六年(一八三五)、

土佐藩の郷士・坂本家の次男として生まれました。商家才谷屋の系譜を引く

坂本家の自由で合理的な町人気質に触れながら育った龍馬は、

窮屈な土佐藩を飛び出し、幕臣勝海舟の門弟となり、

航海術を習得します。その後、長崎で貿易会社を

兼ねた政治結社・亀山社中、そして海援隊を組織

します。対立していた薩

摩藩と長州藩の間を調停し、薩長同盟

の締結に尽力、さらには大政奉還の実現をめざして奔走し、明治維新を大きく

推し進める原動力となりました。しかし、慶応三年

(二八六七)一月一日、何者か

によって暗殺され、「世界の海援隊を

作る」という夢半ばにして、三三年

の短い人生の幕を閉じました。



坂本龍馬使用の鏡
京都国立博物館蔵

りにしていきます。

展示資料は、海援隊の活動や龍馬の国家

構想案などを記録した「海援隊日史」、暗

殺現場の床の間にかけてあった掛軸「梅樞凶

(血染めの掛軸)」、岩崎弥太郎が長崎でかわ

した軍艦購入契約書や「いろは丸」に関する

記録類を取めた「長崎奉行所文書」など重要

文化財指定資料をはじめ、龍馬が家族や木戸

孝允らに送った直筆の手紙、岩崎弥太郎直筆

の手紙や山内神社に奉納した鈴など二人の活

動を知ることのできる資料を全国から集めて一堂に展示しま

す。(※期間中資料の展示替を予定しています)

この展示会は、全国の四会場で開催されます。まず四月二十七日(火)～六



坂本龍馬湿板写真 当館蔵

この展覧会では、二〇一〇年NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放送と連動して、高知や京都などに伝わる龍馬の遺品や書類、幕末の騒乱を伝える歴史資料などで構成しながら、坂本龍馬の波乱に満ちた生涯を浮き彫



坂本龍馬佩用 刀 銘吉行 京都国立博物館蔵

月六日(日)の東京都江戸東京博物館を皮切りに、京都文化博物館(六月十九日(土)～七月十九日(月・祝))、そして高知会場の高知県立歴史民俗資料館(七月三十一日(土)～八月三日(火))、最後は長崎歴史文化博物館(二〇月二日(土)～二一月三日(水・祝))に巡回します。

特別展「龍馬伝」に関連する志の時代展企画展が高知県立坂本龍馬記念館と北川村立中岡慎太郎館などで開催されます。

中岡慎太郎館では、本号に紹介していますように当館との共同開催で「土佐勤王党派主 武市半平太の手紙―拝啓 おとみ殿―」展を七月一〇日(土)～九月二日(日)にかけて開催します。



龍馬記念館は、薩長同盟成立のため龍馬を陰で支えた志士たちについて新資料を背景に紹介するとともに同盟成立の過程を追う「薩長同盟を支えた男たち」展を七月一七日(土)～一〇月八日(金)に開催します。



平成22年4月～6月の催し

4月10日(土)10時

リニューアルオープン!

- 武者行列入城 10:00～
- 岩国藩鉄砲隊保存会 鉄砲隊演武 13:30～
- リニューアル記念特別講演会 (要予約、先着150名)
5月22日(土) 13:00～17:00
「検証 長宗我部元親の四国統一戦」
講師：三重大学教授 藤田 達生氏
講師：高知大学教授 津野 倫明氏

前田博史写真博 **深山**
みやま
平成22年 3月21日(日)
～4月4日(日)
1階企画展示室にて開催
(4/2～4は午後8時まで)

白神、大山、屋久島、そして四国で撮影した自然の美しい姿が心を揺さぶります。自然の声にぜひ耳を傾けて下さい。

予告

次回 夏の特別展

NHK大河ドラマ
特別展

龍馬伝

平成22年
7月31日(土)
～8月31日(火)

平成22年NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放送と連動して東京、京都、高知、長崎の全国4会場を巡回する特別展です。高知や京都などに伝わる龍馬の遺品や書類類、幕末の騒乱を伝える歴史資料などで構成しながら、坂本龍馬の波乱に満ちた生涯を浮き彫りにしていきます。

企画展

「土佐勤王党盟主-武市半平太の手紙-
一拝啓 おとみ殿-」

平成22年4月24日(土)～6月20日(日)

武市半平太が妻の富に宛てた手紙は200通余り残っています。そこには勤王党の活動内容だけではなく、妻への愛情がにじみでています。今回は、手紙の他刀剣など武市家に伝わるゆかりの遺品も一堂に展示し、勤王党の動き、また半平太の人となりを紹介し、高知県立歴史民俗資料館・北川村立中岡慎太郎館共同企画展。(中岡慎太郎館では7/10～9/12開催)



バスツアー

●当館へ電話等で要予約 参加費要、先着各42名

5月8日(土)・5月22日(土)・5月29日(土) 各8:00 JR高知駅出発
担当学芸員が同行し県立歴史民俗資料館企画展と北川村立中岡慎太郎館の春期企画展「幕末土佐『志士』の群像」展を解説します。土佐龍馬であい博の安芸サテライト会場も見学予定。

展示室トーク

5月16日(日)・6月20日(日) 13:00～14:30

担当学芸員による企画展の展示解説
※観覧料が必要です。

れきみんの日

●ワクワクワークの折り紙以外、電話等で要予約(先着順)

5月3日(祝・月) 終日 観覧料無料

新しくなった常設展と企画展を見てクイズに答えよう(終日)。
先着300名に参加賞有り。

ワクワクワーク

「折り紙でかっこいい兜を作ろう!」

10:00～12:00 13:30～15:30 自由参加

「長宗我部氏の武将になろう!」 10:00～12:00

「土佐民話の家」 14:00～15:00 お話：市原麟一郎氏

「岡豊城跡探訪」 13:30～15:30



郷土料理 伝承塾



「土佐の料理 伝承人」の指導のもと家庭でできる、いなか寿司や、かつおのタタキなど郷土料理の料理教室を開催します。

日時：6月20日(日) 10:00～13:30

申込：要。定員になり次第締め切り

参加費：要(食材費)

※詳細は、お問い合わせください。

臨時休館のお知らせ

平成22年4月5日(月)～4月9日(金)

リニューアルオープン準備のため休館します。

平成22年7月22日(木)～7月30日(金)

特別展「龍馬伝」の準備のため休館します。

岡豊風日(おこうふうじつ) 第70号
平成22年三月三十一日
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南門市岡豊町八幡1099-1
TEL 0888662211
FAX 0888662210
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり
観覧料 通常期(常設展 大人(18才以上) 450円・団体(20人以上)360円
(企画展)常設展示込500円・団体(20人以上)400円
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(一名)
印刷：川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール：rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp